

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着を図る「学び直し」から、自ら考え判断し表現する力までを育み、普通科と美術科が相互に刺激高め合うとともに持続可能な教育課程を編成、実施する。</p> <p>②「育みたい生徒像」を実現し、個に応じた学力を育成するためのICT活用を進め、組織的な授業改善を行う。</p> <p>③学校行事等とおして、協働する力を育む。</p>	<p>①確かな学力の定着と教育の「質」を高める授業改善を進める。</p> <p>②一人一台端末に対応した授業方法を発展する。また、図書館の利用を促し、生徒の読書活動を推進する。</p> <p>③体育祭、文化祭、球技大会、生徒総会等の各学校行事について、生徒が主体的に企画運営できるように支援する。また、生徒が積極的に参加できるように努める。</p>	<p>①インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行う。</p> <p>②ICT機器を効果的に使用するための情報発信を行う。また、図書館と各教科等の連絡を密にし、生徒が活字に親しむ機会を増やす。</p> <p>③生徒会本部役員とコミュニケーションをとりながら、設定した目標の達成に向けた企画運営を行う。</p>	<p>①インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行うことができたか。</p> <p>②ICT機器を効果的に使用した授業が行えたか。図書館の利用機会が増加したか。</p> <p>③生徒会本部や委員会において生徒全体のニーズや要望に応えた活動ができたか。また、活動を通じて生徒自身が達成感、満足感を感じることができたか。</p> <p>③各学校行事への参加率や生徒の達成感、満足感を高めることができたか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>①他者を認める寛容の精神と自らを律することができる自己管理能力を育てる。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に対するきめ細かな教育相談体制を充実・発展させる。</p> <p>③部活動・委員会活動やボランティア活動等とおして豊かな人間性や社会性を育てる。</p>	<p>①日常生活習慣を改善し、ルールやマナーを遵守できる生徒を育成し安心・安全な学校づくりを推進する。</p> <p>②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに寄り添う教育相談の充実を図る。</p> <p>③部活動への関心を高め、加入率の向上および部活動の活性化を図る。</p> <p>③生徒会活動や委員会活動を中心として、生徒主体の学校行事の企画・運営に努める。また、様々</p>	<p>①学年ごとの生徒指導体制を充実させ、服装、髪型などのルール、授業中、登下校時のマナー(遅刻指導を含む)に関する指導を実践する。</p> <p>②生活アンケートやサポートドックの内容を読み解き、生徒の抱えている悩みや困り感の把握し、SCやSSWとの連携を密にする。</p> <p>③部活動の勧誘・広報活動等を充実させ、新入生の部活動加入率を高める。</p> <p>③学校や近隣地域などのボランティア活動等を紹介・</p>	<p>①問題行動が減少したか。生徒が自らルールやマナーを遵守して行動する自己管理能力を身に付けたか。</p> <p>②支援を必要とする生徒の正確な把握と適切な支援を策定することができたか。適切に外部専門機関を活用することができたか。</p> <p>③部活動加入率や満足度は向上したか。</p> <p>③ボランティア活動を行う機会を増やすことができたか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		な活動をとおして、充実した学校生活を送り、白山生としての誇りを大切にする生徒を育成する。	支援し主体的な参加を促す。						
3 進路指導・支援	①「未来に向けて自らをデザインしよう」をスローガンに、高い志を持って目標に向かい努力することによって自己実現を図る指導を行う。 ②美術科の専門性を生かした進路実現を支援する。	①アセスメントテスト(基礎力診断テスト)(到達度テスト)の結果を活用し、自己有用感を向上させる。 ①②進路実現に向けた前向きな態度を養う。	①進路適性テストを活用し、自己の能力・適性等の理解を深める。自己有用感の向上させるため成績が向上した生徒を表彰する。 ②個々の特性や専門性をふまえ、インターンシップ等の体験活動を有効活用する。	①自己有用感を高め、成績が向上した生徒が増加したか。 ②インターンシップ等の体験活動に積極的に参加するなど、進路実現に向け主体的に取り組むことができたか。					
4 地域等との協働	①地域と共にある学校づくりを行い、広い視野を持ち、地域に貢献することによって自己有用感を育む活動を充実させる。 ②地域やPTA等との連携を図り、安全・安心で信頼される学校づくりに取り組む。	①地域の清掃活動に取り組み、地域に貢献する姿勢と、貢献活動を通じた自己有用感を育む。 ②地域やPTAと連携し、生徒が安全で安心して生活できるよう、環境づくりに取り組む。	①地域貢献デーなどの機会を通じて清掃活動に取り組む。 ②地域やPTAと連携して安全な自転車の乗車について呼びかけるなどの活動を行う。	①清掃活動を通じて、地域貢献が実施できたか。 ②地域やPTAと連携した交通安全の取組ができたか。					
5 学校管理 学校運営	①教員が多様で複雑な生徒の課題に寄り添い向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②在校生や中学生、保護者や地域に向けた情報発信を充実させる。 ③事故・不祥事の根絶を図る。	①生徒の課題に寄り添い、支援を継続する。 ①ICT活用による業務の効率化とペーパーレス化を推進する。 ②在校生、保護者等のみならず、中学生や地域に向けて分かりやすくタイムリーな情報発信を行う。 ③事故・不祥事をゼロとする。	①人権研修会などの機会を通じて、困り感のある生徒への対応力を強化する。 ①ICTの活用で、情報共有の効率化を図るとともに会議のペーパーレス化を推進する。 ②生徒の取組について、外部の目線に立った分かりやすいHPの運営を行う。 ③不祥事防止研修を定期的に行う。機会をとらえ個別面談等を実施する。	①人権研修などの機会を設け支援の対応力を強化できたか。 ②外部の目線に立って分かりやすくタイムリーな情報発信ができたか。 ③不祥事防止研修を定期的実施できたか。事故・不祥事をゼロとしたか。					

